

川越町の子どもたちの学力向上に向けて

～全国学力・学習状況調査の結果報告～

平成30年9月25日

川越町教育委員会

川越町立川越中学校

本年4月、小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお伝えします。川越町教育委員会では、結果からわかる、子どもたちの「強み」「弱み」等の傾向をとらえ、具体的な施策に反映していきます。つきましては、保護者の皆様には、家庭生活や生活習慣の見直しに向けてご協力をお願いいたします。

なお、この調査は学力の特定の一部を測るものであり、学力のすべてを測るものではないことをご理解ください。



1. 学力・学習状況調査結果

全国学力・学習状況調査について

A問題とは、主として「知識」に関する問題です。(身につけておくべき基礎的な知識や技能)

B問題とは、主として「活用」に関する問題です。(知識や技能を実生活の場に活用する能力)



(1) 学力調査の結果

□全体の傾向・・・全国の正答分布と比較して、概ね同じ分布曲線となっているが、正答率のやや低い生徒の割合が多い。

国語 A：正答率のやや低い生徒の割合が多い。

国語 B：正答率のやや低い生徒の割合がやや多い。

数学 A：正答率のやや低い生徒の割合が多い。

数学 B：正答率のやや低い生徒の割合が多い。

理 科：正答率のやや低い生徒の割合が多い。

□強みと弱み（強み・・・「◎」 弱み・・・「◇」）

	A問題	B問題
国語	◎全体的に無解答率が低い。 ◎文脈に即して漢字を正しく読むことができる生徒が多い。 ◇語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに課題がある。 ◇目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことを苦手とする生徒が多い。	◎全体的に無解答率が低い。 ◎話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問することができている。 ◇目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことが苦手である。 ◇説明文において、文章とグラフの関係を考えながら内容をとらえたり、文章の構想や展開について自分の考えをもったりする力に課題がある。

数学	◎全体的に無解答率が低い。 ◎絶対値や等式の性質を用いた、基本的な数と式の領域は理解できている生徒が多い。 ◇証明の必要性和意味に関する問題や関数の意味の理解については課題がある。 ◇数量の大小関係を不等式に表すことに課題がある。 ◇確率の意味を理解し求めることを苦手としている。	◎全体的に無解答率が低い。 ◇与えられた情報から必要な情報を的確に処理した上で割合を求める問題ができていない。 ◇確率について理解し、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することを苦手としている生徒の割合が多い。 ◇証明において、付加された条件の下で新たな事柄を見だし、正しく説明することを苦手としている生徒の割合が多い。
理科	◎全体的に無解答率が低い。 ◎原子の記号や電気用図記号など、基本的な知識を身に付けている生徒が多い。 ◎食塩水の質量に対する食塩の質量の割合（質量パーセント濃度）を表す技能を身に付けている生徒の割合が多い。 ◇気団の特徴についての知識を身に付けていない生徒の割合が多い。 ◇グラフを正しく分析・解釈することができていない生徒の割合が多い。 ◇実験結果から得た事実から、新たな疑問を持ったり考察したりする力に課題がある。	

（２）生徒質問紙による生活調査結果

①学習時間帯

Q：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか（学習塾や家庭教師含む）

・学習時間が1時間以上の生徒の割合・・・全国：70.3％ 川越町：66.9％

***毎日1時間以上学習する生徒の割合は全国平均より低い。**

②予習・復習

Q：家で宿題をしていますか。

・（どちらかといえば）宿題をしている生徒の割合・・・全国：91.6％ 川越町：97.6％

Q：家で学校の授業の予習・復習をしていますか。

・予習・復習をしている生徒の割合・・・全国：55.2％ 川越町：59.1％

***宿題についてはほとんどの生徒が取り組んでいる。また、約60%の生徒が予習・復習に取り組んでいる。**

③読書習慣

Q：学校の授業以外に、普段（月～金曜日）どのくらい読書をしめますか。

・1日の読書が30分以上の生徒の割合・・・全国：30.9％ 川越町：28.4％

・読書を全くしない生徒の割合・・・全国：32.9％ 川越町：34.6％

***28%の生徒たちがほぼ毎日読書をしているが、その一方で、「全く読書をしていない」生徒の割合が、34%となっている。**

④基本的生活習慣

Q：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

・起きている生徒の割合・・・全国：55.9% 川越町：55.1%

Q：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

・寝ている生徒の割合・・・全国：35.6% 川越町：28.3%

***就寝時刻に関しては、不規則な生徒がやや多い。**

⑤自尊感情

Q：自分には、よいところがあると思いますか。

・（どちらかといえば）あると答えた生徒の割合・・・全国：78.8% 川越町：77.2%

***自尊感情の高い生徒の割合が全国平均と概ね同等である。**

⑥キャリアの形成

Q：将来の夢や目標を持っていますか。

・（どちらかといえば）持っている生徒の割合・・・全国：72.4% 川越町：71.7%

***71%の生徒が将来の夢や目標を持っている。**

⑦家庭でのコミュニケーション

Q：家の人と学校での出来事について話をしていますか。

・（どちらかといえば）話をしている生徒の割合・・・全国：76.0% 川越町：81.1%

***約20%の生徒が、家の人と学校での出来事について話すことに否定的回答をしている。**

⑧主体的・対話的な深い学びについて

Q：今まで受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

・（どちらかといえば）取り組んでいた生徒の割合・・・全国：73.8% 川越町：79.5%

Q：今までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。

・（どちらかといえば）工夫して発表していた生徒の割合・・・全国：53.8% 川越町：52.8%

Q：生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

・（どちらかといえば）できていると回答した生徒の割合・・・全国：76.3% 川越町：81.1%

***主体的に学習しようとする生徒の割合は79%。生徒間の話し合い活動において自分の考えを深めたり広めたりできる生徒も全国平均を上回っている。自分の考えをうまく伝えるように工夫して発表することはやや苦手である。**

（３）学校質問紙の結果からみえる生徒の姿

- ① 基礎・基本の力をつけていくために、「国語（算数・数学）の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えたか」という問いに対し、本校では全校的に取り組んできたので、「よく行った」と回答しています。こういった取組から、生徒全員が回答している設問が増え、無解答率がほぼ全国や三重県よりも下回っています。毎日の授業や家庭学習を大切にすることが、粘り強く取り組む子どもたちの姿につながっています。

- ② 「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えたか」という問いに対し、町の重点でもあることから「取り組んでいる」と回答しています。教育活動において様々な場面で挑戦する場を設定して取り組んでおり、子どもたちの自尊感情の高まりにつながりつつある状況です。ここ数年、改善の傾向が見られるため、今後も意欲を持って挑戦しようとする機会を意識的に設定し、一人一人によい点や可能性を見つけ、積極的に評価および承認を行っていくことで、自尊感情の高まりへつなげていく必要があるととらえています。
- ③ 「調査対象学年の生徒に対して将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか」という問いに対し、本校では「よく行った」と回答しています。毎年2年生生徒を対象に「自分発見！中学生・地域ふれあい事業（職場体験）」を実施しており、子どもたちが自分の将来を見つめる機会となっています。自分の将来を見据え、たくましく成長できるよう、今後もキャリア教育を進めていきます。
- ④ 「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、発言や活動の時間を確保して授業を進めたか」「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか」という問いに対し、「取り組んでいる」と回答しています。互いの考え方を交流したり自らの考えを深めたりするための時間確保はされていますが、理解力および活用能力向上へつながる手立てとなるよう、友だちと共に考え、自らの考えをまとめて表現する活動を積み重ねていくための授業展開の工夫が必要であるととらえています。

2. 教科に関する調査結果から見えてくることと対策



（１）調査結果から見えてくる課題

国語

- 文章からその状況をイメージし、話題や話の方向性を捉える力に課題がある。
- 文脈に即して語句を正しく使う力に課題がある。
- 説明文において、文章とグラフの関係を考えながら内容を捉えたり、文章の構成や展開について自分の考えをもったりする力に課題がある。

数学

- 与えられた情報を的確に処理した上で、割合を求める力に課題がある。
- 確率について理解し、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することを苦手としている生徒の割合が多い。

理科

- 気団の特徴についての知識を身に付けていない生徒の割合が多い。
- 科学的に探究する実験の結果をまとめたグラフを正しく分析・解釈することができていない生徒の割合が多い。

(2) 課題を解決するための手立てや指導改善について

全体を通して

全教科において、教科特有の「見方・考え方」、つきたい力を明確にし、生徒自身が「何を学んだか」「どんなことができるようになったか」を実感できるよう授業改善を進める。

1. 「めあてとふりかえり」(目標の提示、振り返り活動)のある授業の徹底を図り、子どもたちが「できた」と実感が持てる家庭学習へつなげる。
2. 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。
3. 自分の考えを整理して書く力をつけるためのノート指導を行う。
4. 一人一人の学習状況を十分とらえ、少人数による効果的な指導を行う。

国語

1. 書くことの指導の充実
 - ・発達段階に応じて「字数制限やテーマなどの条件を与えて書く活動」を、授業の中に継続的に取り入れていく。
2. 語彙を豊かにする指導の工夫
 - ・文脈に即した漢字や語句を習得するために、例文やフレーズで覚える学習を数多く取り入れる。
 - ・いろいろな文章や作品に出会わせるために、読み聞かせの機会を充実したり、選書コーナーを設置したりする。読書タイムを設定するなど、各校において読書活動や学校図書館での活動を工夫する。
3. 自分の考えをまとめる活動の充実
 - ・授業における話し合いや毎時間のめあてに対する振り返りの中で、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。発達段階や内容に応じて、字数制限などの条件を与えて書かせるようにする。
 - ・自らの問題解決に必要な資料や情報を選択・活用し、友だちと互いに意見を出し合って自分なりの考えをまとめる活動を取り入れる。
4. 短時間で文章から様子やあらすじをイメージし捉える力をつける。
 - ・初めて読む文章から得た情報を整理し、短時間で大まかな「あらすじ」をつかんだり、登場人物の心情について確認したりする学習活動を行う。

数学

1. 基礎的な力をつける時間の確保
 - ・基礎となる内容の定着のために、ていねいに指導できる時間の確保と家庭学習の充実を図り、定着に向けた取り組みを進める。
2. わかる授業を目指した授業展開の工夫
 - ・日常生活や社会の事象や数学の事象から課題を見出し、生徒が主体的に取り組める授業を展開していく。
 - ・数学的な表現を用いて「◎◎であるから、△△である。」の形式で記述させたり発表させたりする。
 - ・言葉や数・式と、図・表・グラフなどを関連付けた授業を取り入れる。
 - ・「ふりかえり」の時間を大切にするとともに、子どもたちの理解度を測る評価問題などを適切に取り入れる。
3. 割合の理解に向けて
 - ・「○割引」「○%増量」「打率○割○分○厘」「勝率○割」など、日常生活の中で割合は登場する。このような割合を、数学に限らず、教師が様々な教科・教育活動の中で使うよう意識し、子どもたちの日常生活の中に多く取り入れるよう心がける。

理科

1. 体験活動の充実
 - ・学習対象に深く入り込み、価値や疑問を見出し、自分で調べたり考えたりする活動を繰り返し行う。
2. 観察・実験結果とその要因とを関連付けて考える活動の充実
 - ・観察、実験をするだけでなく、予想や仮説を設定し、実験・観察後に検証する。また、その結果からさらに考え合う活動を設定する。仲間の考えを聞き、自分の考えをより妥当な考えに改善するための時間を確保する。
3. 学習を通して得た知識を日常生活等に当てはめて考える（活用）活動の充実
 - ・日常にある当たり前のことを、理科の知識で説明できるようにする。
 - ・身近に始まり、身近で終わる授業展開を工夫する。
4. 複数の情報を関連付けながら、分析・考察させる活動の充実
 - ・適切な情報をグラフや図、文章の中から探す機会を設ける。
 - ・複数の情報を比較させ、共通点や相違点を見つける場面を設定する。

3. 町教育委員会による手立て



（１）少人数教育の充実

少人数での指導体制を継続し、国語科および算数・数学科を中心とした基礎的・基本的な力の向上を目指します。

（２）きめ細やかな指導体制の充実

町非常勤講師や学習支援員の配置を生かした指導のあり方をさらに充実し、一人一人の子どもたちが学びやすい環境づくりを進めます。

（３）学力向上推進委員会の機能的な運営

川越町学力向上推進委員会において、各学校の児童生徒分析や取組について協議・情報交流を行い、子どもたちの学ぶ力を伸ばすための授業改善を進めます。また、川越町全体で進める学力向上策について検討します。

（４）校内研修等への訪問指導・支援

北勢教育支援事務所および町教委の指導主事が各校へ訪問し、学力向上に向けた校内研修への指導・支援を拡充します。また、学力の定着を図るための授業のあり方について、教職員に向けた継続的な直接指導を進めます。

（５）家庭学習および読書活動の推進

三重県下で展開されている学力向上県民運動と連動しながら、各校が配付している家庭学習の手引きやシラバス（授業計画）をもとに、「家庭学習の定着に向けた取組の必要性および具体的な家庭支援法」を各家庭へ呼び掛けていきます。また、「読書旅行（読書日本一周・読書世界一周）」の取り組みを推進し、小学校低学年から語彙量を増やしていきます。

（６）自己有用感の向上

「子どもが挑戦する場」を学校や家庭・地域で引き続き意図的に設定していきます。これらの機会を生かし、子どもたちの活動の結果だけを見て評価するのではなく、個々の伸長を見つめ承認していくことで自己有用感の向上を図ります。「挑戦」→「自信」→「成長」→「興味・関心」→「挑戦」・・・というサイクルを大切に児童生徒の自尊感情を高めていきます。

4. 川越中学校の取り組み



(1) 日々の授業改善

生徒が「わかった」・「できた」と思えるような授業づくりを心がけながら、教科・学年・経験年数を越えた研修チームを組み、教員同士がお互いの授業を見せ合い、日常的に授業改善を行う。なお、年1回は、川越町教育委員会または北勢教育支援事務所の指導主事の参観のもと、指導・助言を受け、その取り組みを振り返る。

(2) 学習支援の強化

数学と英語を中心に、TT や少人数指導を継続するとともに、教員の空き時間を利用した校内の見守りの際に、生徒が「わかった」・「できた」と思える支援を行う。

(3) 放課後・長期休業日を利用した補充学習

全学年を対象に、テスト期間に質問日を設定し、わからないところを気軽に聞ける機会を増やす。また、長期休業中には補充学習日を設定し、学習ボランティアを加配することで、より個に対応した支援を行う。

(4) 家庭学習の充実

各教科で毎日の家庭学習につながる授業づくり、宿題設定を継続して行う。また、生活習慣・読書習慣チェックシート等の集計結果を学年・学校たより等で家庭に周知して、生徒・学校・家庭のつながりを強化し、家庭学習に取り組む姿勢の改善を図る。

(5) 学力向上通信の発行

学習することへの興味・関心を高めるため、不定期で学力向上通信を発行する。解いてみたいと思わせる問題や、知識を活用しないと解けない問題を掲載し、探究することの面白さを感じさせる。

(6) 読売ワークシート通信の活用

週1回程度、朝読書の時間に、読売教育ネットワークから配信されている「読売ワークシート通信」を全校で配付し取り組ませる。複数の難易度のワークシートを用意し、自分で選択して読ませる。活字に触れる機会を増やし、短時間で読み取るトレーニングとして活用する。

(7) 「割合」に関する掲示物の作成・ワークシートの活用

「割合」の概念を捉えることに課題があるため、小学校で学習してきた割合の図や表、グラフなどを廊下等に掲示し、振り返らせる。また、県が作成したワークシートを、すきま時間や家庭学習で活用する。

(8) 統計グラフの作成と掲示

専門委員会等を利用して、行政の統計データや生徒アンケートから得られたデータをグラフ化して掲示する。日ごろよりグラフからどんなことが言えるのかを考える習慣をつけさせる。

(9) 学調・みえスタで課題のみられた問題の再活用

各学年で学調・みえスタの分析を行い、課題のみられた問題を数点ピックアップし、結果返却の際に再活用する。グループ等を活用し、全員ができるように仕向ける。

(10) 学力向上ポートフォリオの作成

読売ワークシート通信や県作成のワークシートなど、学力向上に活用したプリントなどをひとつのファイルに綴じて、学びの軌跡を残していく。

5. 家庭・地域へのお願い



(1) 家庭学習の習慣を定着させる・・・見守る、声をかける

子どものノートや学習したプリント等にできるだけ目を通し、「見守り・声かけ」をしていただくようお願いします。家庭学習を継続させるためには、声をかける、ほめる、励ますことで、子どものやる気を引き出すことも保護者の役割です。

【家庭学習を習慣化するポイント】

《児童・生徒》・毎日、決まった時間に決まった場所で勉強する。

- ・テレビ・スマートフォン等の電源を切って、集中して勉強する。
- ・机の上をかたづけて、良い姿勢で勉強する。

《保護者》・カレンダーに「○」を付けるなど、学習の記録を記すようにし、子どもたちの頑張りを「見える化」し、ほめる。

(2) テレビ、ゲーム、スマートフォン等との上手なつきあい方を教える・・・ルール作り

例年、当町の子どもたちは、全国に比べてテレビ、ゲーム、スマートフォンに費やす時間が長い傾向にあります。テレビやゲームを楽しむ時間や、スマートフォンを使用する時間、方法などについて、家庭でのルールづくりをしていただきますようお願いします。望ましい活用については、大人の行動から見本を示すことができるようにしましょう。

例) 毎週水曜日は「ノーテレビ・ノーゲームデー」にする。

夜の10時以降は、携帯電話やスマートフォンを使わない。

リビング以外でパソコンは使わない。

など

(3) 難しいことにも挑戦する心を育てる・・・ほめて伸ばす

今回の生徒質問紙の結果からも、「約20%の生徒が、家の人と学校の出来事について話をしていない」という状況がみられました。また、全国的に、自分自身になかなか自信が持てず、自分で考えたり、自分で決めたりしにくい子どもが増えています。「家族で決めた約束が守れた」「頼んだ仕事ができた」など、子どもが何かを継続して行ったときや、以前よりも進歩や成長が見えたときには、その機会を見逃さず、きちんとほめましょう。成功や失敗、順位や点数等に注目するのではなく、過程も含めて、子どもの意思で行動したことを評価することが大切です。

【子どものほめ方のポイント】

- 他の子（友だちやきょうだい）と比べてほめない
- よかったことを具体的にほめる
- 結果（順位や点数等）に注目せず、努力したことをほめる
- その場ですぐほめる

「ほめて伸ばす」ことは、「叱ってはいけない」ことではありません。人のことを考えず、我慢のきかない子どもにならないように、悪い事は悪いと教え、目指すべき良き行動がとれるように子どもを導いていきましょう。

(4) ご家庭で読み聞かせや読書をする機会を大切にする・・・家庭読書習慣

「語彙（ごい）の量と質」の違いが学力差に大きく影響しているとの指摘があります。まずは、おうちの方からの読み聞かせや、テレビの時間を読書の時間に変えることから始めましょう。はじめは受動的な読書かもしれませんが、しかし、その時間を継続的にもつことで、やがて子ども自らが本と向き合うことのできる能動的な読書へつながっていくと考えます。ぜひ、子どもたちの「本を読んでほしい」「本を読みたい」という気持ちを大切にしていきましょう。

